

## 戦争を起こすのは人間です

かつて私たちの国は、先の大戦によって、アジア太平洋地域のみならず、世界中の人びとに惨害をもたらしました。私たち宗門においても、仏法の名のもと、多くの青年たちを戦場へと送り出し、戦没者や残された遺族にも、はかりしれない苦痛と悲しみを強いてきました。軍人・軍属だけにとどまらず、戦争で命を落とした世界の全ての人びとが伝える声を聞きたずねながら、懺悔の思念を旨として、毎年、全戦没者追弔法会を勤めてまいりました。

戦後から77年を経た今、全戦没者の悲しみの声を聞き、過去の歴史として風化していく戦争の記録を、一人ひとりの心に記憶していく歩みが大切です。その歩みの中で、あらためて歴史を紐解くとき、なぜ戦争が起きるのかと問わざるを得ません。

現在も世界各地で起こる戦争は、経済、民族意識、政治、宗教といった社会構造がその背景となっています。そして他者との間に生じる利害の不一致や意見の相違によって起こる対立を暴力で解決しようとする姿勢から、戦争は生まれてきます。

戦争を起こすのは、私たち「人間」です。現在の日本では、戦争は終わっているかのように見えます。しかし日常生活の中で、自らを守ろうとすることで生じる排他性や攻撃性は、他者との分断を生み、状況が少し変わるだけで、多くの人を巻き込む戦争を引き起こす可能性を持っています。

平和保持のためには、人間の努力や叡智の営みが求められることはいうまでもありません。しかし、人間である私たちは、自分を絶対化し、再び戦争を生み出す危うさを持っていることを忘れてはいけません。「いずれの行もおよびがたき身なれば、とても地獄は一定すみかぞかし」(『歎異抄』)の言葉は、そのような地獄を作りつづける人間存在の闇を見つめた教えです。

この法会において、過去の悲惨な戦争の歴史を一つひとつ丁寧にたずね、そこから聞こえる悲しみの声を聞き届けたいと思います。そして今を生きる私たちのあり方を見つめながら、平和への歩みを共に始める機縁としていきたいと思います。